

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	印環細胞を認める大腸癌における ALK 遺伝子変異の解析
	研究目的	<p>大腸癌において、様々な遺伝子異常を持つ癌の存在が以前より増して明らかになってきており、ALK ( anaplastic lymphoma kinase ) 融合遺伝子もその一つである。</p> <p>大腸癌においては、これまで海外からの発表で ALK の遺伝子変異は 0.24-2.5%の頻度と報告されているが、本邦では、まだ報告は無い。</p> <p>当院において遺伝子パネル検査を施行した印環細胞を認める大腸癌症例において ALK の遺伝子変異を認めた。非小細胞肺癌では印環細胞癌を認めるものには ALK 変異の頻度が多いと報告されていることから、大腸癌においても印環細胞と ALK 変異に関係がある可能性を考えた。当院における大腸癌において印環細胞所見を認める症例に ALK の免疫染色を施行し、臨床病理学的所見を確認する。</p>
	研究対象者	<p>1.2015 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日の期間に当院消化器外科（大腸）より手術検体が組織診断依頼されたもの</p> <p>2.組織学的診断において「印鑑細胞」が確認できるもの</p>
	研究期間	西 暦 2020 年 5 月 25 日 ~ 西 暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	塩澤 学
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科大腸、病理診断科、がんゲノム診療科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし